

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

香川県

学校名

坂出市立坂出中学校

人権課題

子どもに関する課題

対象学年・
取り扱った教科等中学1年生・
道徳科、学活、総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・いじめの構造について知り、いじめは絶対にあってはならないものだと認識する。（知識的側面）
- ・自分自身の心にある差別心を通して心の弱さに気づき、それを改めようとする態度を育てる。（価値的・態度的側面）
- ・自分の身近な人の違いを認め、互いを認め合う心を育てる。（技能的側面）

実施した内容

- ・道徳科 …… 「魚の涙」「私の話を聞いてね」「席を譲ったけれど」
- ・学活 …… インターネットと人権
- ・総合的な学習の時間 …… 「ええところ」短所を長所にリフレーミング

工夫した点

- ・いじめには加害者と被害者だけでなく、観衆や傍観者がいることを知り、いじめは絶対にしてはいけないということを認識させた。
- ・道徳科では、生徒にとって馴染みやすい、さかなクンが書いた「魚の涙」から、自分の考えや言動を見つめ、いじめを自分の問題として捉え、いじめのない社会を実現していこうとする実践意欲を育てた。
- ・インターネットが普及した現在、いじめはSNSでも多くおこっているため、インターネットと人権について学び、相手を傷つけないために自分が気をつけなければいけないことについて考えさせた。

他教科との
関連

道徳科・学活・総合的な学習の時間

事業成果

知識的側面：いじめの構造について理解し、いじめはあってはならないものだと感想に書いた。
 価値、態度的側面：道徳科を通して、自分のなかにある差別心に気づき、改めようとする感想が見られた。
 技能的側面：中学校に入学して新しい人間関係を構築していくなかで、相手を尊重しながらお互いを認め合うことが大切であることに気づいた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

香川県

学校名

坂出市立坂出中学校

人権課題

障がい者に関する課題

対象学年・
取り扱った教科等中学1年生・
道徳科、学活、総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・障がい者に対する差別や偏見があることを知るとともに、障がいに関係なく生活しやすい社会づくりをしていくことの重要性を知る。（知識的側面）
- ・自分自身の心にある差別心を通して心の弱さに気づき、それを改めようとする態度を育てる。（価値的・態度的側面）
- ・体験学習を通して、障がい者の思いに共感し、互いを認め合う心を育てる。（技能的側面）

実施した内容

- ・道徳科
- ・学活
- ・総合的な学習の時間
- ・・・「きいちゃん」「みえるとかみえないとか」
- ・・・誰もが暮らしやすい社会
- ・・・福祉体験学習

工夫した点

- ・道徳科では、絵本から「ちがい」について考え、障がいも「ちがい」の1つであるにも関わらず、差別や偏見によって苦しんでいる人たちがいることに改めて気づかせた。
- ・総合的な学習の時間において、坂出市社会福祉協議会に来校いただき、車いす体験・視覚障がい聴覚障がいの疑似体験などの福祉体験学習を実施した。
- ・障がいは人にあるのではなく社会の環境にあることから、身近にあるバリアの存在に目を向け、お互いに配慮や工夫を考えることで、誰もが暮らしやすい社会をつくっていくという態度や意欲を育てた。

他教科との
関連

道徳科・学活・総合的な学習の時間

事業成果

知識的側面：障がいは社会の環境にあることを学習し、だれにとっても生活しやすい社会づくりの重要性を知った。
 価値、態度的側面：実際に福祉体験を行ったことで、障がいとなるものを考えて周りに気を配るようになった生徒が増加した。
 技能的側面：お互いの「ちがい」を大切にし、差別や偏見は許さないという思いを強めることができた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

香川県

学校名

坂出市立坂出中学校

人権課題

同和問題に関する課題

対象学年・
取り扱った教科等中学3年生・社会科
道徳科、学活、総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・同和問題に関して正しい知識を得るとともに、差別や偏見の現状、それに苦しんでいる人々や立ち向かって生きようとする人々がいることについて知る。（知識的側面）
- ・自分自身の心にある差別心を通して心の弱さに気づき、それを改めようとする態度を育てる。（価値的・態度的側面）
- ・結婚差別や就職差別等の同和問題を課題に取りあげ、互いを認め合う心を育てる。（技能的側面）

実施した内容

- ・社会科公民的分野 平等権
- ・道徳科 …… 「ぼくの将来」
- ・道徳科 …… 「きっと笑って会える日を」

工夫した点

- ・社会科では1年次より歴史的分野を通して、同和問題に関する知識理解を積み重ねてきた。3年になり、平等権の学習をする際に、これまでの学習について振り返り、人間が作った差別であることやなくしていかなければならないことを学習した。
- ・道徳科では「就職差別」「結婚差別」の視点から、現代社会に残る同和問題について考え、差別を見抜く力や、差別を許さない力の醸成を図った。
- ・学年団をあげて、差別事象を取り扱う際は、どの授業でも「自分にできることは何か」という課題を掲げて、差別に対して、正しい行動を起こすことができる態度や意欲を育てた。

他教科との
関連

社会科・道徳科・総合的な学習の時間

事業成果

知識的側面：ポスターやテレビCMなどを通して、同和問題が身近に存在し、解消しようとしていることを知った。
 価値的・態度的側面：「人がつくった差別を人の手でなくしていかなければならない」という思いを強くした。
 技能的側面：差別解消に向けて、互いを思いやることを大切にしたいという感想を書いた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

香川県

学校名

坂出市立坂出中学校

人権課題

ハンセン病患者等に関する課題

対象学年・
取り扱った教科等中学2年生・
道徳科、学活、総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ハンセン病に関して正しい知識を得るとともに、ハンセン病回復者が受けてきた差別や偏見の歴史や現状について知る。(知識的側面)
- ・自分自身の心にある差別心を通して心の弱さに気づき、それを改めようとする態度を育てる。(価値的・態度的側面)
- ・ハンセン病回復者の思いに共感し、互いを認め合う心を育てる。(技能的側面)

実施した内容

- ・道徳科 . . . DVD視聴「未来への虹～ぼくのおじさんはハンセン病～」
- ・総合的な学習の時間 . . . 「ハンセン病について正しく知ろう」
- ・道徳科 . . . 「人間として」
- ・総合的な学習の時間 . . . 大島青松園オンライン交流会

工夫した点

パンフレットやDVD等でハンセン病を学習し、ハンセン病がどんな病気なのか、ハンセン病に対してどんな差別や偏見があるのかについて知的理解を深めた。また、単にハンセン病に関する知的理解にとどまらないよう、道徳科では差別の現実や差別された方の思いに触れ、心情に寄り添うように学習を展開した。また、大島青松園に住むハンセン病回復者の方々とのオンライン交流会では、質疑応答形式で、回復者の方々の差別への怒りや苦しみ、若者へのメッセージを直接聞き、学びを深めた。今もなお偏見や差別がなくなっていないことへの怒り、差別をなくさなければいけない強い気持ちをもつことができた。

他教科との
関連

学活・道徳科・総合的な学習時間

事業成果

知識的側面：DVD視聴や道徳、ハンセン病回復者の方々とのオンライン会話を通して、差別を身近に感じ、思いを深めた。
 価値的・態度的側面：学習のまとめに、今もなお偏見や差別がなくなっていないことへの怒り、差別をなくさなければいけないという強い気持ちを感じに綴った。
 技能的側面：人権課題を身近なものとしてとらえ、差別解消に向けて互いを尊敬することの大切さに気付いた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

香川県

学校名

坂出市立坂出中学校

人権課題

性的指向・性自認に関する課題

対象学年・
取り扱った教科等中学2年生・
道徳科、学活、総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・体の性と心の性の違いに関して正しい知識を得るとともに、LGBT等に対する差別や偏見の現状、それに苦しんでいる人々や立ち向かって生きようとする人々がいることについて知る。（知識的側面）
- ・自分自身を含め身近にあるLGBT等に関する差別や偏見について気づき、それを改めようとする態度を育てる。（価値的・態度的側面）
- ・LGBT等に関する悩みをもつ人の思いに共感し、互いを認め合う心を育てる。（技能的側面）

実施した内容

- ・学活・・・「男らしさ？女らしさ？」
- ・総合的な学習の時間・・・性の多様性について考えよう
- ・道徳科・・・「僕のもやもや」
- ・学年団道徳科・・・「人権月間を振り返って～LGBTについて考えよう」
- ・学活・・・「学級人権宣言をつくろう」
- ・講演会・・・「自分らしく生きる」（あしたプロジェクト）

工夫した点

LGBT等の知的理解を深めるだけでなく、資料やDVDを通して、身近な差別事象について知る機会を設けたり、話し合い活動で自分の考えを述べたり、友だちの意見を聞いたりすることで、視野を広げ、固定観念を払拭できるようにした。また学級だけでなく学年団で語り合い、思いを共有することで、お互いを理解し、ともに差別をなくしていこうとするなかまづくりにつなげた。

他教科との
関連

学活・道徳科・総合的な学習時間

事業成果

知識的側面：香川県人権啓発会議から配布されたパンフレットを通して、性の多様性について考えた。
 価値的、態度的側面：LGBT等について高い学習意欲をもって学習に取り組み、自分のなかの差別心に気づいた。
 技能的側面：自分自身のことについてカミングアウトしている生徒や当事者意識を高めつつある生徒もいる。